

白石の農×育てる人

～農家の輝く姿を情報発信！～

2カ月に1回、白石のすてきな農家さんを紹介し、私たちの身近にある「農業」の情報を楽しくお届けします。

今回は、干し柿をテーマに「JAみやぎ仙南白石地区干し柿部会」の会長である佐久間義昭さんに話を伺いました。



◎農林課 ☎22-1253

本市の柿の歴史

本市は、白石城主・片倉家の武将が奈良県から持ち帰り移植したといわれる「^{はちや}蜂屋柿」の優良産地として知られ、平成7年からは、本市を日本一の柿の里にするため「柿の里白石構想」に基づき、柿の園地造成や遊休農地を柿畑に転換したほか、柿温麺やころ柿アイスなどの加工品の開発が行われました。

現在は、JAみやぎ仙南白石地区干し柿部会と宮城県ころ柿出荷協同組合の2団体が、干し柿やたる柿などを生産・出荷しています。

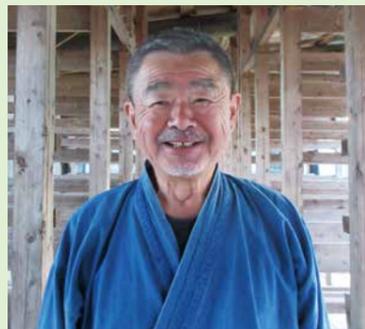
JAみやぎ仙南白石地区干し柿部会とは

JAみやぎ仙南白石地区干し柿部会は、柿という地域資源を活用する目的で昭和50年に発足し、現在は7人で活動しています。令和5年の生産量はおよそ7,400キロ。JAが定める等級基準で一番上の等級を目指して全員が品質向上に取り組んでいます。

干し柿の課題と今後

園地化によってまとまって栽培されている柿は、ひとつでも病気に感染するとほかの木に感染しやすく、防除作業を少しでも怠ると被害が拡大してしまう課題があります。このような状況の中、JAみやぎ仙南白石地区干し柿部会では、感染対策として木の消毒回数を増やすことや柿の干し方を工夫し、より品質の良い干し柿の生産に努めています。

会長の佐久間さんは「消費者にもっと喜んでもらえる干し柿の生産を目指したい」と今後の抱負を笑顔で話してくれました。



JAみやぎ仙南
白石地区干し柿部会長
さくま よしあき
佐久間 義昭 さん



▲横かけにより、ひもやほかの柿との接触を避けて品質管理をしています

環境報道

◎環境課 ☎22-1314

～白石市環境美化活動特集～

■白石蔵王エコフォーラム清掃活動



●場所 国道4号（白石市越河～斎川地区間）

昨年11月、白石市と蔵王町の企業7社でつくる「白石蔵王エコフォーラム」と越河、斎川地区住民との合同の清掃活動が行われました。問題となっている尿入りペットボトルは道路沿いに多く、計170本回収。ほかにも空き缶や生活ごみもあり、可燃ごみは計130kg、不燃ごみはごみ袋約3袋分回収されました。

■白石工業高等学校・白石高等学校バレーボール部 地域清掃活動



白石工業高校と白石高校の男子バレーボール部が合同で地域の清掃活動（白石工業高校～白石蔵王駅間）を行いました。活動に参加した生徒は「すれ違う地域の方々から感謝の言葉をいただき、うれしい気持ちになりました」「隣の白石高校の生徒さんと一緒に活動できて良かったです」「自然豊かな白石の景色が一段ときれいに見えた日になりました」と話していました。回収したごみの量はごみ袋約25袋分となりました。

■市内で行われた美化活動記録（令和3年～）

令和3年	15団体
令和4年	11団体
令和5年	15団体
令和6年 (12月時点)	9団体

【主な活動内容】

- ・商店街の歩道清掃・馬牛沼周辺の草刈り、ごみ拾い
- ・スパッシュランドパーク清掃、地区内清掃
- ・落ち葉回収・市内道路側溝の清掃・工業団地内清掃
- ・白石城お堀清掃 など

■白石市環境美化活動について

市では、ボランティアで道路や公園などの清掃（ごみ拾い）を行う学校、自治会、老人クラブ、PTAなどの団体に清掃用具を貸与しています。貸与物品は火ばさみ、ごみ袋（無償配布）です。

環境課窓口で申請書を記入していただくほか、環境課ホームページから申請書をダウンロードして記入することも可能です（代表者印が必要となりますのでご持参ください）。

2025年もきれいな地域に